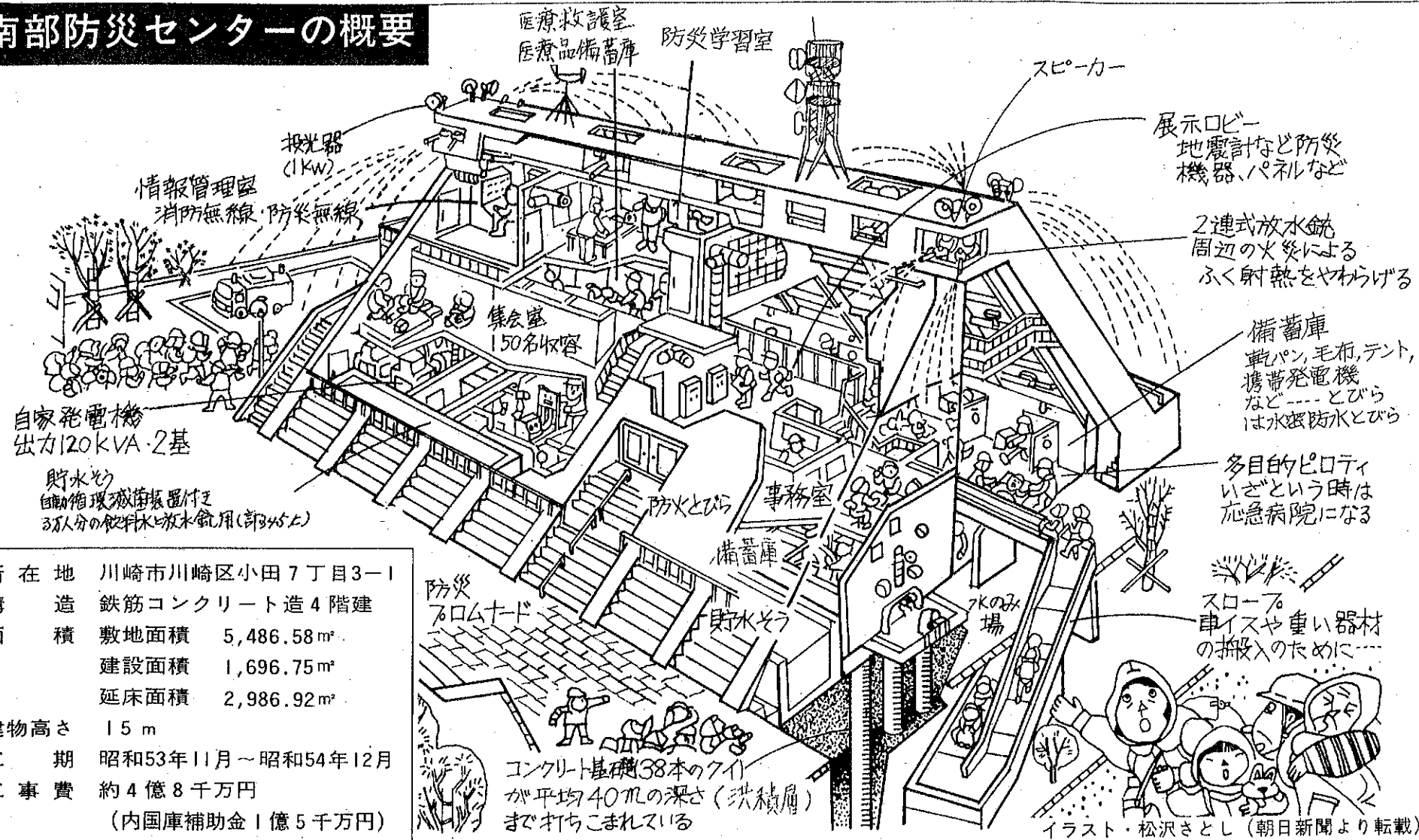
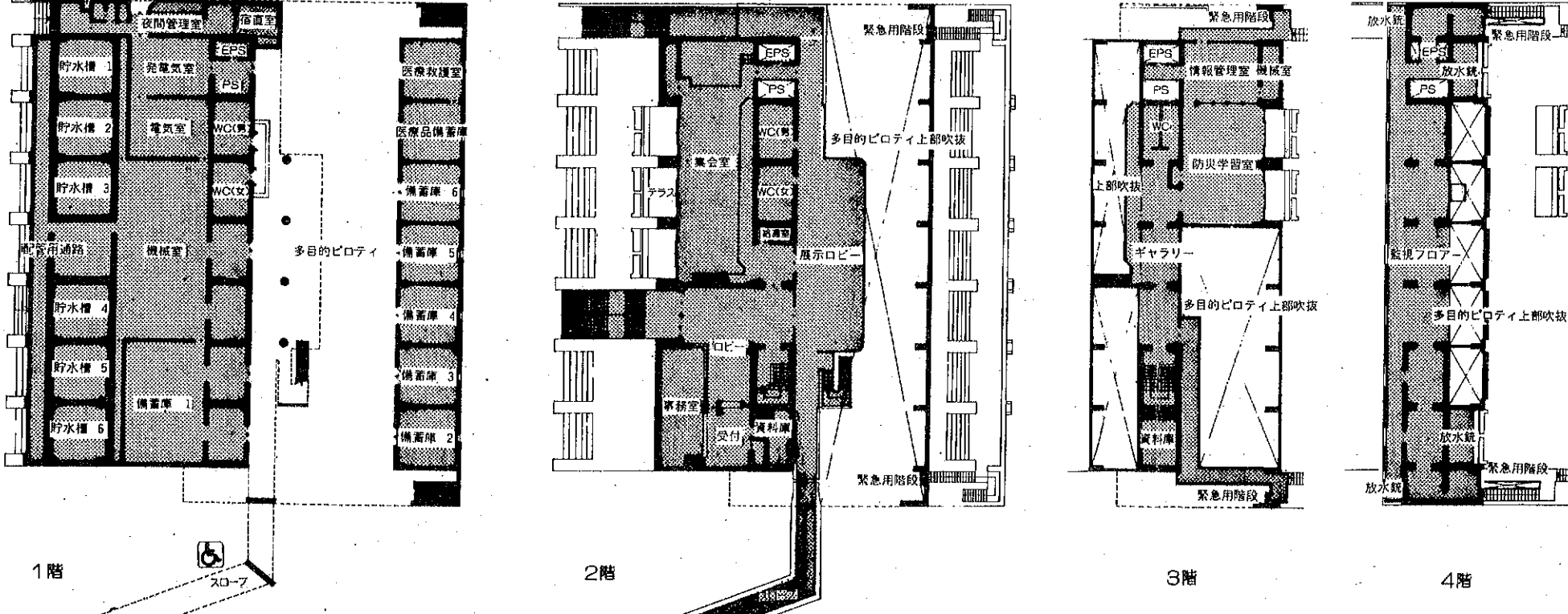


# 南部防災センターの概要



所在地	川崎市川崎区小田7丁目3-1
構造	鉄筋コンクリート造4階建
面積	敷地面積 5,486.58㎡
	建設面積 1,696.75㎡
	延床面積 2,986.92㎡
建物高さ	15m
工期	昭和53年11月～昭和54年12月
工事費	約4億8千万円 (内国庫補助金1億5千万円)



## ○建設に至る経過

昭和51・52年度の2ヵ年、国土庁の委託を受け「地区防災基地整備計画調査」を実施しました。  
 その結果、長期的防災対策（都市計画的整備）と短期的防災対策（応急対策）を有機的に連結する中期的防災対策が不可欠であることが明らかになり、昭和53年度「地区防災基地防災センター建設事業費補助金」の新設に伴ない、市民各層代表も含めた建設調査委員会で検討を進め、川崎で最も災害危険度の高い小田地区に南部防災センターを建設するに至りました。

## ○目的

川崎市では「行政と市民が一体とならなければ、大災害に対処できない」という考えで、両者の接点として地区避難場所を指定し、状況に応じて広域避難場所へ避難する「段階避難システム」を採用しています。  
 南部防災センターは、このシステムのモデルとして、災害時は、地区避難場所における応急対策活動の拠点として、小田地区三万人の市民に情報を提供したり、被災者の収容、医療救護ならびに給食・給水など備蓄物資の提供による救援活動を行います。  
 また、平常時は、防災講演会、防災映画会、救急法講習会などを実施するとともに、災害記録写真、防災関係図書、防災機器用品等を常時展示して、初期消火、避難等、非常災害に的確に対応しうるよう、正しい防災知識を習得する場所としての役割を担うことを目指しています。

## ○運営方針

通年24時間勤務態勢（夜間・消防職2名）をとり非常災害時に備えるとともに、将来は、各種の地象・気象観測器材や実験装置などを充実し、楽しみながら学べる防災科学館的側面を強化して、防災の基盤となる市民コミュニティをはぐくみ、災害に強い市民づくりに寄与したいと考えています。

## 川崎市南部防災センター

(川崎市川崎区小田7丁目3-1)

☎044-355-2175

毎月15日は川崎市民地震防災デーです

## 防災コミュニティ基地の概要

### 基地整備構想の概要

防災コミュニティ基地は、現在市内各所に設置している災害用備蓄倉庫の機能に加えて情報の受伝達機能や応急医療機能を併せもった施設で、災害時における応急救護活動の拠点となるものです。

- 模 約100㎡  
造 鉄筋コンクリート壁式構造

### 設備内容

#### ◎ 備蓄倉庫機能

地震災害に備えて応急救護活動のため次の物資を備蓄します。

- ★ 乾パン
- ★ 毛布、トイレトペーパー
- ★ 小型発電機、移動用投光機、災害用応急資器材

#### ◎ 応急医療機能

医薬品を備蓄し、災害時には簡易応急医療手当を行います。

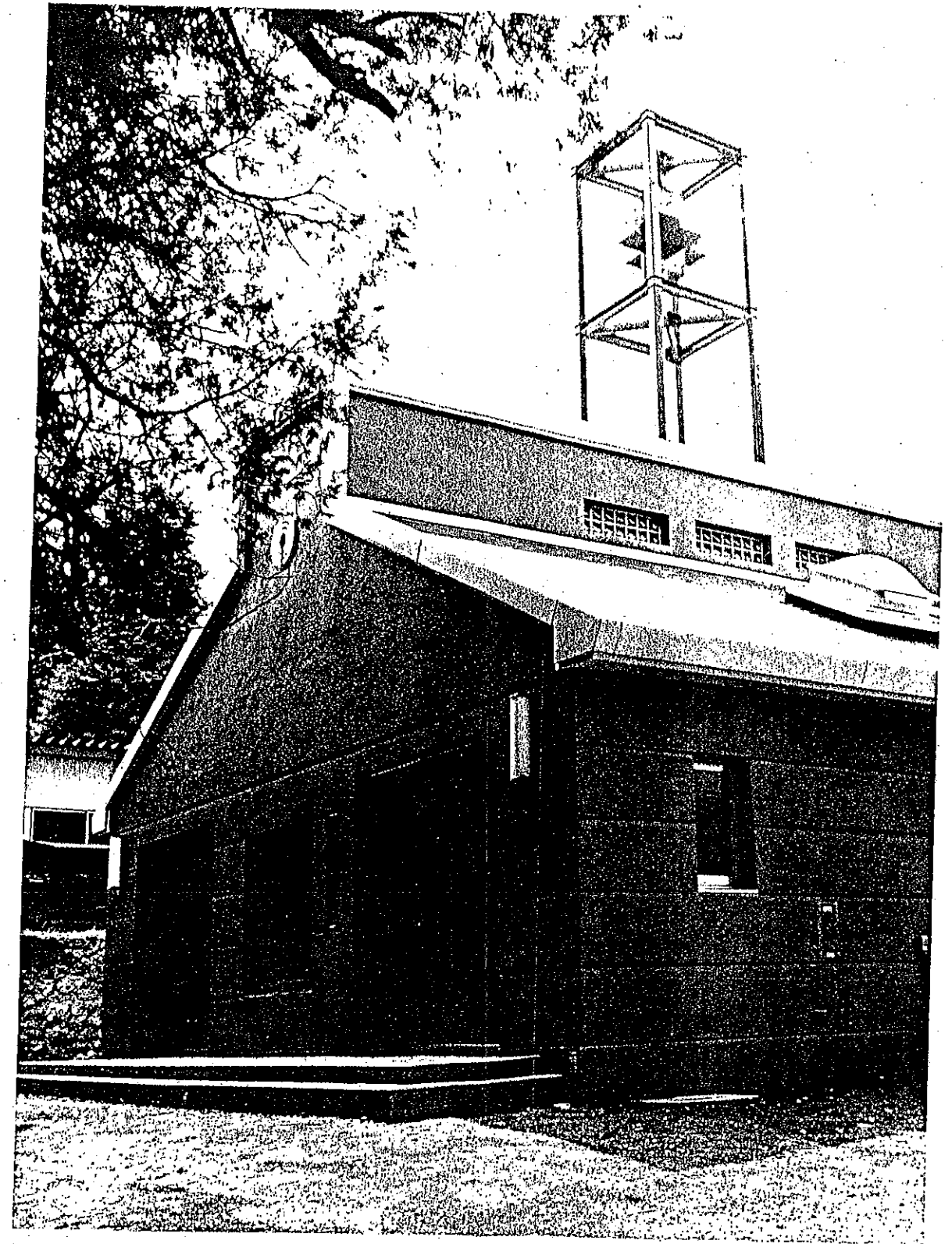
- ★ 医薬品
- ★ 担架

#### ◎ 情報受伝達機能

無線設備を利用し、地区本部と連動した避難、救護活動等に必要な情報の受伝達を行います。

### 建設年次予定

59年度	幸区	幸防災コミュニティ基地	完成
60年度	高津区	高津防災コミュニティ基地	完成
61年度	中原区	中原防災コミュニティ基地	完成
62年度	宮前区	仮称 宮前防災コミュニティ基地	



高津防災コミュニティ基地